

会員サイト公開用 役員活動報告書

名 前	伊藤 智典
担当業務	<ul style="list-style-type: none"> ・本協会役員、士会長 OBG・OG ネットワーク検討部会の担当として、本会の元役員、士会長、士会事務局長、士会理事を地域、年齢、ジェンダーなどバランスに配慮して構成された部会員の先生方と協議を行いました。2年間の検討の集大成として、4月の理事会へ報告書を提出しました。 ・JANNET(障害分野 NGO 連絡会)では、監査役(監事)として運営にかかわり、国際開発分野の障害関連の情報収集ならびに、障害当事者団体や人道支援系の NPO などの関係醸成をしています。 ・日本障害者リハビリテーション協会では、国際委員として会議に参画し、国際的な障害者を取り巻く動向について意見交換をしています。 ・World Physiotherapy では、AWP region(世界理学療法連盟アジア西太平洋地区)の執行委員会の委員として AWP region の委員会会議、総会、学会に参加し、グローバルな視点から、理学療法士の活躍にむけた議論ならびに Webinar などの諸活動を行っています。

内 容			
日 付	他団体	会議名	場所
1月 7 日		第3回 士会長・役員 OBOG ネットワーク検討部会	オンライン
1月 11 日		第6回 理事会	対面
1月 17 日	○	日本障害者リハビリテーション協会 国際委員会	オンライン
2月 1 日		第6回 理事懇談会	対面
2月 5 日	○	AWP 地区執行委員会会議	オンライン
3月 1 日		第7回 理事会	対面
3月 4 日		第4回 士会長・役員 OBOG ネットワーク検討部会	オンライン
3月 11 日		専務理事・ネットワーク検討部会調整会議	オンライン
3月 18 日	○	AWP 地区 Webinar	オンライン
3月 31 日		専務理事・ネットワーク検討部会調整会議	オンライン
所感		<p>1月 7 日、第3回 士会長・役員 OBOG ネットワーク検討部会を開催しました。2年間かけて行ってきた検討をまとめていく集約型の議論をおこない、OBOG の先生がたがロイヤリティを感じるネットワークの必要性があることを確認しました。報告書(案)を作成し、3月に最後の会議を開催し、議論することになりました。</p> <p>1月 11 日、第6回 理事会が開催されました。本会の定款 第6章に定められている事項のうち、以下の(1),(2)の決議を行いました。</p>	

【定款第6章 理事会の職務より】

- (1)この法人の業務執行の決定 (2)理事の職務の執行の監督
- (3)会長の選定及び解職 (4)副会長の選定及び解職
- (5)専務理事の選定及び解職 (6)常務理事の選定及び解職

上記の(1)に関して、いわゆる職員理事の今後の取り扱い、職員が理事および代議員に就任した場合の制限に関する就業規則改正、第60回日本理学療法学術研修大会収支予算（案）、職員への2025年度特別手当の支給、2025年度事業計画並びに予算案、新入会員の承認について審議し、決議しました。

報告事項では、前述の職務のうち「(2)理事の職務の執行の監督」として、第59回日本理学療法学術研修大会 大会報告・監査報告、前回理事会の課題事項等の進捗状況報告、2024年度 第3四半期職務執行状況報告、賃上げ、アドボカシー活動、急性期配置や産後ケア、下部尿路症状など政策提言、2025年度理事会諸会議の日程、第5回指定規則改正3協会協議、DX及びAI推進検討部会における提言書作成の報告、60周年記念式典及び祝賀会の開催日時・会場、会長行動録、事務局報告、会員の懲戒処分について確認しました。

資料のみでの報告ですが、「産後ケア事業ガイドライン」の改定に伴い実施者に理学療法士が明記されたこと、オリンピック・パラリンピックに帯同した理学療法士を把握し協会がその貢献を称えること、リハビリテーション専門職団体協議会における処遇改善調査の結果、自由民主党「予算・税制等に関する政策懇談会」における本会要望提出、第53回総会および代議員ネットワーク検討部会報告書を踏まえた代議員に対するプッシュ型の情報提供、2025年度理学療法士講習会の公募結果、会報誌「JPTA NEWS」制作業者の選定、「定期刊行物発送及び保管に関する業務委託」の入札結果、常任理事会の会議報告についても確認しました。

私は使用人兼任役員ですので、審議事項のうち、「いわゆる職員理事の今後の取り扱い」、「職員が理事および代議員に就任した場合の制限に関する就業規則改正」の議題の間は利益相反にあたらぬよう退席しており、議論には参加しませんでした。事後で議事録を確認したところ、提出した意義、議論の精度に疑問が残りました。定款に定める(1)～(6)に当てはまるかどうか分からぬという議論のスタートであること、論点や帰結のプロセス、時間延長した会議運営のコストの観点からみても、重要かつ緊急でない議題提出をどう考えるか、慎重な見極めが必要だと感じました。

1月17日、日本障害者リハビリテーション協会の、2024年（令和6）年度第二回国際委員会会議がオンラインで開催されました。アブダビで開催されたRehabilitation Internationalの世界会議の報告が主題でした。参加者らは医科大学の名誉教授、高齢・障害・求職者雇用支援機構、AAR Japan難民を助ける会、国立障害者リハビリテーションセンター研究所など、障害を取り巻く様々な分野の方々が参加されている会ですが、専門職団体は本会のみです。情報収集のみならず、意見

交換を通じて、しっかりと理学療法士のプレゼンス向上に貢献したいと考えます。

2月1日、第6回 理事懇談会が開催されました。災害理学療法支援業務計画案、理学療法における不正請求問題と現行の診療報酬の課題－診療報酬に関する最終目標の明確化、「公衆衛生」領域における保健理学療法士（仮）の育成に向けた職能研修事業（案）、本会使用人兼務役員の今後の取り扱いについて、議論されました。災害理学療法支援業務計画案は、有事の際の行動指針になりえるもので、いま議論する重要性があるものでした。また現行の診療報酬の課題については、小さなりハビリテーション診療料よりも広い枠組みの中で議論され、視点をひろがるものでした。今後の集約化に期待されます。

本会使用人兼務役員ですので、今後の取り組みについての議題では退室し、協議には参加しておりませんでした。こちらも事後で確認したところ論点が定まらないものであるとのこと、何か別の意図があって議論されているような疑問を感じるところです。理事会諸会議は、真に会員さんのためになるべく役員としての責務を果たす場であること、これらの組織運営についての議論が必要であると感じます。

2月5日、AWP 地区執行委員会会議が開催されました。主に 2026 年の AWP 地区学会の開催地について議論されました。2つの国の加盟組織から提出があり、それぞれの良い部分と足りない部分などを慎重に分析しました。委員会での決議の結果を、世界理学療法連盟の理事会に提出し、最終的に審議されることとなりました。アジア地区の専門職の向上にむけた Webinar 企画も検討しました。環境と理学療法、神経系の理学療法、物理療法などがあげられています。

3月1日、第7回 理事会が開催されました。本会の定款 第6章に定められている事項のうち、以下の(1),(2)の決議を行いました。

【定款第6章 理事会の職務より】

- | | |
|-----------------|----------------|
| (1)この法人の業務執行の決定 | (2)理事の職務の執行の監督 |
| (3)会長の選定及び解職 | (4)副会長の選定及び解職 |
| (5)専務理事の選定及び解職 | (6)常務理事の選定及び解職 |

上記の(1)について、第61回日本理学療法学術研修大会 in 福岡の企画案・予算案、分掌規程・組織規則の改正、役員賠償責任保険契約の理事会承認、2024年度（第43回）協会賞受賞者の承認、協会名誉会員の推薦、2025（令和7）年度役員報酬額（理事）の決定、新入会員の承認について審議し、決議しました。

上記（2）について、2025（令和7）年度役員報酬額（監事）の決定、「理学療法士」以外への就職・転職についての調査報告、認定理学療法士臨床認定カリキュラム教育機関の審査結果、会長行動録、事務局報告について確認しました。

	<p>口頭報告なしですが、がんのリハビリテーション研修・リンパ浮腫研修の次期運営委員の推薦、本会が4号会員となっている中央労働災害防止協会研修会への本会会員参加結果、SAFE コンソーシアムアワードにおける企業等間連携部門シルバー賞受賞、60周年記念事業 PR動画制作業者の選定、理学療法白書2024年度版の発行、会員マイページへのEMV-3Dセキュアの導入、常任理事会の会議報告について、確認しました。</p> <p>役員報酬は最終的に役員報酬等検討委員会が定めますので、理事会で決められるのは例年通り上限のみです。これまで、斎藤会長が協会の運営のため数百万円を自主返納するなど、一人で責任をかぶってきた経緯があります。しかしこれには反対の立場です。会員の負託を受けた役員ですから、運営の責任は役員全員で取るべきです。このあたりの組織風土も変える必要があると考えています。</p> <p>3月4日、第4回士会長・役員OBOGネットワーク検討部会の最後の会議を開催しました。ネットワークはOBOG側にとっても、また協会側にとっても有益であり、タイミングをあわせてあえるような自律性の担保されたネットワークであるべきとのことで、議論が集約されました。理事になって初めての担当部会は今後、ずっと記憶に残ることだと感じています。部会の先生方には心からお礼を申し上げます。</p> <p>3月11日、専務理事・ネットワーク検討部会の調整会議が開催されました。谷口専務理事の呼びかけで、長谷川理事、野崎理事と伊藤が出席しました。内容は2025年度にむけた取り組みの意見交換でした。続いて3月31日にも、意見交換を行いました。専務理事として一定の集約化をはかられたものと考えています。</p> <p>3月18日、AWP地区のWebinarが開催されました。テーマは環境と理学療法で、オーストラリア、ニュージーランドからそれぞれ1名の理学療法士にご登壇、私は司会を務めさせていただきました。環境理学療法協会の概要から、最近のリサーチにより緑にふれることによる科学的なエビデンスと実践例など、さまざま取り組みが紹介されました。公衆衛生、グローバルヘルス、ワンヘルスから、プラネタリーヘルスにつながる幅広いトピックスに質疑が多く寄せられましたが、時間の都合上すべてを網羅できなかつたのは残念です。しかし本会会員らが参加し、積極的に質問するなど、国際的な取り組みに対して交流が進み、広がっているのは将来にむけて期待が持てるだと理解しました。</p> <p>今後も何か質問等ございましたら、遠慮なくお問い合わせください。お時間がかかるかもしれません、お返事させていただきます。</p> <p>伊藤智典 E-mail address t-ito@japanpt.or.jp</p>
報告日	2025年4月12日

※「他団体」に○がついている項目は、本会役員として他団体に関与しているものです。